

令和 7 年度第 1 回大正区区政会議

日 時：令和 7 年 6 月 2 0 日（金）

午後 7 時 0 0 分～午後 8 時 3 0 分

場 所：大正区役所 4 階藤井組大正区民ホール

○西尾区政企画担当課長

皆さん、こんばんは。それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和 7 年度第 1 回大正区区政会議を開催させていただきます。

本日は公私何かと御多忙の中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日の司会を務めます、区政企画担当課長の西尾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

午後 7 時現在、区政会議委員定数 1 4 名のうち、出席者はリモートを含わせて 1 3 名です。委員の 2 分の 1 以上の出席がございますので、区政会議の運営の基本となる事項に関する条例第 7 条第 5 項に基づきまして、本会議は有効に成立しておりますことを、御報告申し上げます。それでは、着座にて失礼いたします。

それでは、開会に当たりまして、大正区長の村田より、御挨拶申し上げます。

○村田区長

改めまして、こんばんは。大正区長の村田です。

大変お世話になっております。この 4 月から大正区長として着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

2 年前までは、隣の副区長の席に座っておりまして、その前はその隣の総務課長の席に座っておりました。長い間区政会議の委員の皆様方にはお世話になりましたが、この区長の席に座るということで、当然立場が異なれば視点も変わりますし、姿勢も変わってくると思います。新たな気持ちで取り組んでまいりたいというふうに思いま

すので、どうぞよろしくお願いいたします。

今日の議題は、昨年度の大正区の運営方針、古川区長時代の取り組まれたことについて、こうだったよという御報告というか、その振り返りと、あと、現在あります「大正区将来ビジョン2025」というのが、これが今年度で終わりなんです。

なんで、これから来年度以降の将来ビジョン、4年間のビジョンをつくってまいるというふうに考えておりまして、私の前、前、前任の筋原区長時代からつくってまいりました将来ビジョンの新しいバージョンを、皆さんと一緒に作り上げていければなというふうに考えております。

ですので、今日の議論はあまりにも広いです。自分で皆さんにお願いしておきながら、何でも言うてくださいと言ったら、なかなか難しいですよ。今晚の御飯何でも言うてや言うて、何でも言うてや言われたらなかなか難しいですよ。確かに今日はすみません、申し訳ないです。だんだん、これから回を重ねるごとに、それを絞り込んでくると、そういう取組になってくるかなと思いますので、こんなことを言って申し訳ない気持ちないんですけれども、何でも言っていただければというふうに思っていますので。

自分の関心のあるところで結構でございますし、途中これからのビジョンの考え方みたいなものを申し上げてまいりたいと思います。やはり、筋原区長時代から私三代の区長に仕えてきたんですけれども、その区政の流れを継続はしながらも、皆さんと一緒に、私なりの色を出していきたいなというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上、1時間半になりますけれども、皆様の活発な御議論をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

○西尾区政企画担当課長

ありがとうございました。

次に、会議の進行につきまして、お手元の配付の資料並びにあらかじめお送りさせ

ていただきました資料を基に進めさせていただきます。

議題に入ります前に、その都度資料の確認をさせていただきます。事前にお送りさせていただいた資料をお持ちでない方がいらっしゃいましたら、まだ予備がございますのでおっしゃっていただきますように、よろしくお願いいたします。今回につきましては、議題2の資料の送付が大変遅くなり、誠に申し訳ございませんでした。お詫び申し上げます。よろしくお願いいたします。

次に、本日の会議は、全て公開とさせていただきます。本日撮影させていただきました動画や写真、会議録等は後日、区のホームページで公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日はメディアからの取材申入れもあります。メディアによる録音や撮影がありますので、こちらにつきましても御了承くださいますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、お忙しい中、オブザーバーとして御参加いただいております、皆様を御紹介させていただきます。

出雲市会議員です。

○出雲市会議員

こんばんは、いつもお世話になっております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

○西尾区政企画担当課長

小山市会議員です。

○小山市会議員

いつもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○西尾区政企画担当課長

川岡府議会議員です。

○川岡府議会議員

どうもよろしくお願いいたします。

○西尾区政企画担当課長

なお、金城府議会議員におかれましては、公務により御欠席と伺っております。

続きまして、令和7年度の人事異動に伴い新たに着任した職員を紹介させていただきます。

まず、私です。区政企画担当課長に着任いたしました、西尾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

防災防犯担当課長の楠本です。

○楠本防災防犯担当課長

楠本です。よろしくお願いいたします。

○西尾区政企画担当課長

窓口サービス課長、永田です。

○永田窓口サービス課長

永田です。よろしくお願いいたします。

○西尾区政企画担当課長

生活支援担当課長の三宅です。

○三宅生活支援担当課長

三宅です。よろしくお願いいたします。

○西尾区政企画担当課長

事務局を担当します、総務課庶務グループの山本です。

○山本係員

山本です。よろしくお願いいたします。

○西尾区政企画担当課長

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

ここからの議事進行につきまして、議長にお願いしたいと思いますので、北川議長

よろしくお願いいたします。

○北川議長

皆さん、こんばんは。よろしくお願いいたします。着座にて、進行させていただきます。

それでは、早速議事に入らせていただきます。

議題１、「令和６年度大正区運営方針」の振り返りについて、区役所よりの説明をお願いいたします。

○西尾区政企画担当課長

それでは、議題１について、御説明をいたします。

事前に送付しております、書類番号１、「令和６年度大正区運営方針」。それと、書類番号３、「区政会議委員からの事前質問・意見に対する回答」ということで、机の上に置かせていただいた書類番号３でございます。

この２点について、御説明させていただきます。

今回は、令和６年度の区政運営について振り返りを行い、自己評価を策定しました。この書類番号１、「令和６年度大正区運営方針」では、自己評価に係る部分を色付けしております。

この書類番号１につきましては、もう事前にお送りさせていただいておりますので、御確認いただき、事前質問をいただいております書類番号３について、担当課より御説明させていただきます。

それでは、議題１に係る土井委員からの事前質問への御説明を、前田課長にお願いいたします。

○前田こども・教育担当課長

こども・教育担当課長の前田と申します。どうかよろしくお願いいたします。

土井委員から、御質問がございました内容は、子どもの居場所を大正区役所内に設けることと合わせて、不登校児に対して専門スタッフをつけ、近隣の企業・工場見学

の機会を設け、見聞を広め、社会とのつながりをつくることは可能でしょうかという御質問でございました。

大正区では、不登校等により学習機会を逃した児童・生徒を対象に、区独自の取組でございます「学習・登校サポート事業」として、学習支援・登校支援に加え、学校や家庭以外の第三の居場所を区役所に設置しそこで、専門スタッフが一人一人に寄り添った支援を行っております。

資料には記載しておりませんが、文部科学省の考え方を御説明しますと、不登校生徒への支援に対する基本的な考え方の一つに「支援の視点」が記載されています。その内容は簡単に申しますと、不登校児童・生徒への支援は、学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、児童・生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に実施することを目指す必要があると記載されております。

土井委員からの御提案につきましては、不登校の生徒にとって、家庭や学校以外の大人と接する貴重な機会になると考えております。

今後の「学習・登校サポート事業」におきまして、個々の生徒の状況を踏まえ、居場所支援の一環としまして、関係機関、そして港・大正・西淀川ものづくり事業実行委員会とも連携して、検討していきたいと考えております。

以上でございます。

○西尾区政企画担当課長

もう一点、1－2の土井委員からの質問について、私のほうからお答えさせていただきます。裏面、2ページです。

2点ありまして、運営方針の中で、区民の意見を取り入れているのはどのような点でしょうか1点目です。

2点目としまして、節目の第1回目ということで、課題らしい課題がないので、方針の発表とそれを見た感想・意見という形で、対話なく会議が進行すると思われませんが、議題の範囲が広く意見が述べにくく、時間の使い方的に少しもったいなく思いま

す。広く区民の声を聞く場としてはいかがでしょうかということでありました。

1 点目につきましては、大正区運営方針の策定につきましては、これまでも区政会議で御議論いただいた内容等、御意見を取り入れて、運営方針案を区役所で作成させていただいています。その案を策定後に区政会議において、御意見をお伺いした後に公表を行っております。

また、令和6年度におきまして、区政会議の御意見を受けて、次のとおり具体的な取組ということで、経営課題1、健康で安心して暮らせるまち「大正」の主な戦略ということで、ここでは喫煙率改善に向けた取組の1つとして、区政会議でいただいた御意見を基に、健康経営優良法人として、南委員に講師を務めていただき、「知って得する！健康寿命の伸ばし方～たばこと健康～」というテーマの健康講座を開催しました。

経営課題4、にぎわいと魅力あふれるまち「大正」の課題認識ということで、鶴浜地区における事業予定地の活用についても、区政会議や地域からいただいた御意見を踏まえて、準備を進めておるところでございます。

2 点目の質問ですが、先ほども区長からもありましたけれども、今回の議題では、次期将来ビジョンについて、令和8年4月の策定を予定しておりまして、策定に当たりまして、委員の皆様とともに、初めからつくり上げていきたいと考えているため、様々な視点から、幅広く御意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議事進行については、いただいた意見を踏まえて、いろいろ今後も工夫を重ねてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○北川議長

ありがとうございました。

ただいま区役所から説明がありました、令和6年度大正区運営方針の振り返りにつ

いて、何か御質問、御意見等ございませんでしょうか。

どなたか。

土井委員。

○土井委員

土井です。

事前質問、回答いただいてありがとうございました。

2週間ぐらい前ですか、青年部会というか有志が集まって意見交換会をしたときに、これを読んだかっていう話で。読んだけれども質問しにくいなという話になった、正直ね。

毎度のことなんですが、議題が1個、2個あって、恐らくやけれども、議題1、2に、それぞれにも当てはまらない意見というのは、きつとうごめいてるとうか、さらに持ったまま来て、帰ってみたいなことを繰り返されてる委員もいるんじゃないかと思ひましてね。そういう声をこの場で行政にぶつけるとうか、聞いてもらうための場にしてはいかがかなと思ひたので、この1－2の質問になったわけなんですけども。事前に釘を刺されたみたいない感じで。どうしようかな思ひてます。

今回の進め方はふだんどおりで、今後の進め方は検討してまいりますという方針でいいですかね、区役所としては。

○西尾区政企画担当課長

はい。

○土井委員

いいですか、はい、分かりました。

○北川議長

ありがとうございます。

ほかにどなたかございませんが。

山崎さん。

○山崎委員

山崎です、お世話になってます。

土井委員の質問で、子供の居場所を大正区内に設ける、不登校児に対して専門のスタッフとありますけれども。

不登校児という、そのワードがすごい難しいところ、グレーのところやと思うんです。どっからどこまでが不登校なんか、1回でも行ったら不登校なんか、年に何回以上行ったら不登校ではなくなるのかっていうところですよ、その年に何回か行っただけから不登校じゃないけれども、なかなか行けてない子供たちに対しては、どうしていくのかというすごい細かいところまで、見て行ってほしいなと思います。やっぱり本当に子供たちにとっては、待ったなしの状態やと思いますので、いち早い解決方法を、区役所にもお願いしたいと思います。

私からは、以上です。

○北川議長

ありがとうございます。

今の件に関して。

○前田こども・教育担当課長

子ども・教育担当課長の前田です。御質問ありがとうございます。

山崎委員の不登校の内容でございますが、不登校児童・生徒というのは国で定義されておりまして、読み上げますと、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と定義されております。

先ほど御説明しました、大正区で取り組んでいる「学習・登校サポート事業」対象である不登校児童生徒については、こどもサポートネットという事業がございまして、当該事業は24区で展開しております。学校においてスクリーニングにより課題のあ

る児童生徒を抽出され、例えば不登校や不登校傾向、それ以外の課題がある児童・生徒を支援の対象としています。その中で、学習、登校、あるいは居場所の支援が必要である方を対象としています。国でいう定義の不登校児童・生徒だけを対象としているわけではなくて、大正区では支援の対象者を幅広くとらえ、不登校、不登校傾向、またそのほかの課題のある児童生徒も含めて対象にしています。

また、不登校児童生徒への対策というのは、非常に難しい課題だと思っております。全国的や大阪市におきましても、不登校の児童・生徒は増加傾向にあり、大正区におきましても、数字ではここでお示しできないが、特に中学生については、不登校の割合は高い状況にあるため、大正区としましては、学校とも連携して、区独自の取組である「学習・登校サポート事業」を活用しながら、しっかりと対応していきたいと考えております。

また御意見等いただければ、それを踏まえてやっていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

○北川議長

はい、どうぞ。

○山崎委員

何度もすいません、山崎です。

「学習・登校サポート事業」、学校家庭以外の第三の居場所という事業をしているという周知を、もっとしてほしいです。

ここにこういう会議に出ている方は、そういう事業があるんやっというのは分かるんやけれども、やっぱり一般の方というのは、そこまで知れ渡ってないと思うんです。その周知をもっとしてほしいというのと、もちろん大正区PTA協議会でも広めてほしいというのであれば、全然広めてもすごい事業だと思いますので、本当に不登校の生徒を持つ親というのは、先が見えへんのやと思います。すごい不安もいっぱいある中で、こういう事業があるというのは、すごい心の支えになると思うんです。生徒だ

けじゃなくて、保護者にとっても。そういう周知をもっと徹底してやっていってほしいなと思いますんで、よろしくお願いいたします。

以上です。

○北川議長

ありがとうございました。

今のでいいですか。もうそしたら。

○山崎委員

はい。

○北川議長

ほかにございませんか。

南さん。

○南委員

お疲れさまです、南です。よろしくお願いします。

今までずっと土井さんも言ってたような話で、今までの区政会議の在り方についてなんですけれど、この膨大な資料をバーンと渡されて、どこでも質問をせえとなると、我々がやってる仕事って、もう粗探しになってきちゃうですね。正直、読んで自分の分かるところの中で、ここおかしいんちゃうか、ここおかしいんちゃうか、でも分からへんなみたいなところで、ずっと粗探しをさせられている。

そして、ここでそれを発言するのも、何か痛いところを突くだけの話になっちゃうので、できればこの資料にちょっと余白をつくるなりしてはいかがかなと。ここを決めかねてんねんけれども、どう思うみたいな、そういう問いかけ的なものがあると、我々もそれについて、すごく真剣に考えられますし、その前後の資料を読んで、我々はこう考え、我々やったらこう考える、僕の立場だったらこう考えるみたいなことが、言いやすいのかなと。今現状はもう。

特に何年もかけてつくり上げた資料なので、もう本当にこの二、三回はもうほぼ粗

探し状態で、僕らずっと資料を読んでいたんですけれども。ちょっとそれを僕らもや
ってる意味があんまないのかなというところもあるので。

できればそういう行政の方からしても民意を聞きたいよとかいうようなところ、も
しくはちょっとまだ決まってないけれど、こんな状態っていう余白みたいなところを
つくってもらえると、もうちょっと議論として成立するのかなと。そして我々も自分
の得意なところをしっかりと考えて発言できるのかなというところが、まず1点と。

今日、そして次回ぐらいは、恐らくそんなにまだ次のビジョンがない状態で、今ま
でやったやつの振り返りみたいな状態になってしまうと思うので、今我々が考えるの
は、このせっかく区のことを考えてしゃべる場やし、今意見を見てても、子供さんに
対する意見、子育てに対する意見がすごく多いので、その議論をしてる場に若いお母
さんがいないというこの状況を何とか打破するために、今後、区政委員の中に若い女
性を入れていくために、どういう施策を採れば入ってもらえるんだろうとか、そう
いう話をするのが、今のタイミングで、すごくいい議論になるのかなと思いました。

以上です。

○西尾区政企画担当課長

ありがとうございます。

先ほど区政会議の議論の中での余白というところ、またこれも今すぐ、どんなこと
っていうのは分からないですけれども、今後事前に御相談させていただくなり、ちょ
っとまた逆にアイデアをいただきたいと思いますので、またそのときはどうぞよろし
くお願いいたします。

それと2点目の子育て層の方、若い女性を入れるということも含めまして、また何
か、私ども、ぜひともそういったことはしたいと思っておりますので、次の10月の
改選でも、7月には次の公募委員を募集する予定にはなっておりますので、ちょっと
何かまたその辺も何かいいアイデアがあったらいただけたらと思いますので、よろし
くお願いいたします。

○南委員

ありがとうございます。

皆さん何かいいアイデアあったら、ここでもしと。おお、来た。

○土井委員

僕アイデアではないんですけども、うちの妻は区政会議に興味を持ってまして、託児所を造ってくれるんやったら、いけるのになみたいな話をしましたので、その場というか当日限り受けるような受皿があれば、それこそ子育て世代のお母さんとかは、参加できるんじゃないかなと思います。

○南委員

素晴らしい意見じゃないか。

○土井委員

僕の意見です。

○西尾区政企画担当課長

ありがとうございます。

その辺も行政的にどこまでできるかというのを、ちょっと今後検討させていただいて、できるだけ御希望に添えるようにしたいとは思いますが、いろいろ課題もございますので、どうなるか分かりませんが、できるだけ御意見に沿えるように頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

○北川議長

ありがとうございます。

直接やらんと、飛ばさないようしてください。

○西尾区政企画担当課長

申し訳ございません。

○北川議長

議長がおりますのでよろしくお願いします。

○西尾区政企画担当課長

すみません、申し訳ございません。

○北川議長

ほかに皆さん、何かございませんか。

大石さん。

○大石委員

大石です。

先ほどの話で、この7月に新しい区政会議の委員さんの選定ということをちょっと出たんですけども、私などはもう今日と次回で多分任期は終わると思うんです。ただこの4年間見てましても、現実には現在、子育て世帯のメンバーさんが誰もいてないんです。それはお孫さんをお持ちの方もいてるだろうし、子供さんがもうまだ大学に行ってるという方もいらっしゃるかと思うんですけども、実際小中学生を育てている世代の方は、多分なかったんじゃないかなと。今後のことを考えると、そういう世代の方がお一人とかお二人とかいう枠は確保してもらったほうがいいんじゃないかなっていうのが、今の思いですね。

○北川議長

ありがとうございました。

今いろいろと、御質問ありましたけれども、皆さんほかに何かございませんか。

藤田さん。

○藤田委員

藤田と申します、よろしくお願いいたします。

先ほど不登校の話に戻しますが、以前から大阪市では数字が発表できますが、大正区では発表できないということで、増えている傾向とか、そういった傾向なんですね。

実際、課題とかビジョンとかというと、やっぱりある程度数値化したほうが、例え

ば何%だった不登校の方々が何%に減ったとか、傾向だけじゃなくて、具体的な数字があったほうが、目標値として出しやすいのかなと思うんですけど。

それは出せないということだったので、まだ出せないのだったら出さないで、また別の形で何か出ないか、傾向という言葉だけじゃなくてですね。増加傾向と減少傾向だけじゃなくて、何かもうちょっと数字的に何か分かるような仕組みがあったらいいなということが1つと。

それからビジョンですね、この1年間で2026年度以降のビジョンをとということなんですが、このメンバーが替わるかもしれませんけれども、一人一人が思っているビジョンをどう集約するかって、非常に難しいと思うんです。

ですから、今までどうやったか、私分かってないんですが、どうやってそのビジョンをつくったか分かってないんですけど、やはり新しい区長さん中心に、3本か4本かちょっとこんなもんを考えてるけれど、この中に近い形とか、あるいはこの中の4つをまとめてこういうふうにしていきたいというか、柱となるものがあつたりすると、こちらもそれについていろんな意見が出ると思うんですね。

今後の課題として、トータルで物事を考えないといけないと思うんですけど、今回の区政会議ではこれとこれを中心にやりましょうとか、ちょっと細分化してやっていただいたほうが、今回はそしたら例えば福祉とか、あるいは福祉の中でも障害者と児童とか、あるいは高齢者、私福祉畑なのでそういうふうな形になりますけれども。あるいは前からあった大正区をどう活性化するかという活性化の中で、住宅についてとか、いろんな分野があると思いますので、それをある程度ちょっと絞っていただいたほうが話しやすいんじゃないかなと思っております。よろしくお願いいたします。

○北川議長

ありがとうございます。

ただいまの意見につきまして、区役所のほう何かございますか。

○西尾区政企画担当課長

先ほども議題について、また決めるときにそういった形で、この議題、この議題と決めさせていただくのも1つだと思いますので、また皆さんと御相談しながらやらせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○北川議長

どうぞ。

○前田こども・教育担当課長

こども・教育担当課長の前田です。

藤田委員からの御質問でございますが、別で、昨年度大正区地域福祉ビジョン作成に当たりまして、藤田委員から同様の意見ございました。地域福祉ビジョンでは、大正区の数字については教育委員会に確認したところ出せないことになったため、地域福祉ビジョンでは、大阪市の小中学校の不登校児童・生徒数を数字として掲載させていただきました。藤田委員のご意見にあるように、大正区の状況をどのように反映するのかについては、教育委員会と相談しながら工夫し、検討していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○藤田委員

よろしくお願いいたします。

○北川議長

ありがとうございました。

ほかにもう一方ぐらい、どなたかございませんか。

中島さん。

○中島委員

中島です。こんばんは。

先ほど、土井委員から言ってもらったような気持ちでいっぱいです。実際ですね、書類番号2-2というのが割と最近送られてきていて、僕が見るのが遅かったのか分からないのですが、各施策の総括という部分で、これをこういうふうにとまとめ

てもらえると、非常に最初にあったら、もっと質問いっぱいかけたのになってというのが。一番最初の資料に、もしこれが入っていたら僕質問したいことが幾つか出てました。

例えば、3番の空家等への対策という項目で、令和5年住宅土地統計調査における大正区の空家率17.7%で、大阪市平均の16.1%より高いものの、平成30年の調査における大正区の空き家率19.6%よりも下がっていることから、区内の空き家が減少傾向にあると考えられますというこの文章のところで、ちょっと引っかかったのが、確かに空家って減ってるのですけれども、実際空家で人が住んでるわけではなくて、ほとんど民泊やな。

こういった課題をやはり大正区で持っていると思うんですよね。これは大正区だけのことなのか、大阪市全体のことなのか、この辺はちょっとよく私も分かりませんが、少なくともこの民泊というものに関して、特区に入ってるから仕方がないんだっていう回答ばかりをいただくんです。そういったこともせっかく区政会議のメンバーで、地域に精通しておられる方もいらっしゃるし、それから目指してる方もいらっしゃるの、こんなことも話し合ったよということを、何か大正区から大阪市、大阪府、そういった行政のほうに上げていただくような手段というルートもないのかなというの、ちょっと感じた次第です。

実際問題、私は町会長やってまして、地域の人から夜寝られへんという苦情しょっちゅう聞くんです。表に、民泊に書いてある電話番号にかけて、ちょっと苦情が出ているからかけようと思ったら、すぐに留守番電話に切り替わって、実際は何ともならないというので、そういったことで次の日に電話したら留守番電話を入れておいたらかかってきてというような繰り返しを、実際地域ではやってます。そういったことを恐らく大正区の区役所のほうも多分つかんでいることだと思うんですよ。そういったことも、細かい話ですけども、ちょっと話を聞いていただきたい場面。

そういったことも、結局、統括で全部やっちゃうから、時間が1時間半足りなくな

るので、できれば分科会のような形で教育だとか、今回は教育の話をしようとか、今回は地域のことの話をしよう。今度は経済のこと話をしようというような、分けていただいたら、もっともっと意見が活発に出るんじゃないかなというふうに思っている次第です。

以上です。

○北川議長

ありがとうございます。

区役所のほうは何もございませんか、民泊の件に関してないですか。

○西尾区政企画担当課長

先ほど議題については、同じ繰り返しになりますけれども、1つの課題という形で、次の課題については、また御検討させていただきたいと思います。

○北川議長

ありがとうございます。

副区長。

○北吉副区長

民泊については、大阪市のホームページでも、民泊の一覧が出ていて、大正区もどれぐらいあるのかっていうのを私も見たときに想像以上にあって、大阪市全体でも6,000を超える状況です。もう大正区だけでなく、市全体の課題でもありますけれども、できる対応などいろいろ御意見をお聞きしながら、考えていかないといけないと思っています。

○北川議長

ありがとうございます。

私の両隣の家も、何十年と住んでおられる古い方で、その両隣が両方とも片っぱは両方お亡くなりになって、反対のところは両方とも施設に入られている。今、片方の民泊、もう片っぱも民泊という形で、中国と台湾に囲まれて、うちが大変な状態にな

っているんです。そういう形で、まだ入ってないですけども、7月頃から入るのとは違うかなというふうになってます。大正三軒家地域は、特に民泊通りいうぐらい、名前になってますので。その辺も1つよろしく願いいたします。

どうぞ。

○南委員

すみません、南です。

民泊について、僕結構地域でいろいろ聞いたんですけど、いいイメージ、いい意見も結構あったんのはあったんですけども。空家に1人は絶対いるし、民泊にした以上、そこちゃんと管理せんと、周りから文句を言われると、結構きれいにしてはるので、まちが汚くならないという、いいところもあると思うんですけど。

ただやっぱし中島さんがおっしゃったように、大阪市は特区やから入ってくるのを拒めないみたいな話で、どうしようもないんやろうけれども。その中で大正区長さんはそれをどう思ってるのかなと。特に我々三西に住んでる人間としては、ほんまに、どんどんまちが民泊に、コロコロ変わっていったる状況で、このままいったら全部民泊ちゃうかみたいな話になっていっているんで、コンビニはめっちゃ売れてるみたいやし、すごく経済効果は確かにあると思います。ただ、防犯の意味であったり、防災、いろいろな観点があると思うんですけど。ぜひ、区長さんがどう思ってるのかなというのをちらっと聞きたいなと思いました。お願いします。

○北川議長

ありがとうございます。

じゃあ、区長一言。

○村田区長

区長の村田です。いつもありがとうございます。貴重な御意見をありがとうございます。

先ほども南委員がおっしゃったとおりで、ええところ、悪いところ、両方あると思

います。私の知ってる三泉の市場のお菓子屋さんの隣にマンション1棟が丸々民泊になっている。そのお菓子屋さんが言うてはったんは、そこに泊まる人が買いに来てくれたらうれしいのになと。おっしゃってるように経済的な効果がありますし、外国人の方がたくさん大正区にお越しになって、お金を使っただければ、経済が活性化するというのは、非常にありがたい話になっています。当然言ってるように、まちが空家で草ぼうぼうになっていて、瓦が落ちて放火されたりとか、ゴミをほられたりとかいうよりは、まだいいかなというふうに思いますが、ただ、いらっしゃる方が、マナーというか、日本のやり方を御存じない。そういった方が夜遅くまで大きい声を出されるとか、朝早くからがらがらがらとかそういうのをされて、周りとしたら困るよねというお話がある。今ちょっとお聞きしましたし、以前から三西を中心にお聞きしてますので、私が今ここであれをします、これをしますというのはできないんですけども。区長が集まる場では、1つ課題提供は一度してみたいなというふうに思います。

うちだけじゃなくて、多分外国の方がたくさんいらっしゃる生野区なんかは、もっとすごいと思うので、どないしてはるかとか、そんなんは勉強してみたいなと思います。ありがとうございます。

○北川議長

ありがとうございます。

いろいろ皆様方、御意見あろうかと思えますけれども、時間に限りがございますので、発言できなかった意見は、後日御意見シートにて提出をお願いいたします。

それでは、これで議題1を終了させていただきたいと思えます。いろいろ皆様方の大変な貴重な御意見をいただきました。後の区政運営に生かさせていただきたいと思えます。

それでは、次の議題に移らせていただきます。

議題2、「大正区将来ビジョン2025」の進捗状況と新たな将来ビジョンについて

て、区役所側の説明をお願いいたします。

○西尾区政企画担当課長

それでは、議題２につきまして、御説明させていただきます。

事前にお送りしてます書類番号２－１、裏表の２－１、将来ビジョンの総括というものと、先ほどこちよつと議論になりました、２－２、「大正区将来ビジョン２０２５」各施策の総括という、この大きいＡ３のものです。この２種類で御説明させていただきます。

それでは、「大正区将来ビジョン２０２５」につきまして、これは令和５年度に策定させていただいて、令和５年度から令和７年度、ですから来年の令和８年３月までの期間ということになっております。そのために令和８年４月から、新たな将来ビジョンで進めていく必要があります。

今回の区政会議ではその将来ビジョンの方向性について御意見をいただきたいと考えております。

資料には将来ビジョン総括となっておりますが、ここにはあと１年残していますので、途中経過ということで、現時点の総括ということになっております。

それでは、２－１の「将来ビジョン２０２５の総括」というのを御覧いただきますと、めざすべき将来像につきましては、今現在の将来ビジョンのめざすべき将来像です。これは人や文化が多様性に富み、幅広い世代が支え合いながら共に生きる「ホッとなまち大正」。安全・安心で、こどもの未来が輝き、愛着をもって住み続けられる、持続可能なまちをめざします。また、このまちのポテンシャルを活かし、新たなにぎわいと魅力を創り出すことにも挑戦します。これがめざすべき将来像としまして。

あと１年残した現時点の総括としましては、この１枚、もう一個２－２のほうで、こちらのほうが各施策ごとの総括ということで、個別の事業の施策を書かせていただいています。

その全体の総括として、この２－１の一番最初のところに書かせていただいたの

が、ここにめざすべき将来像の総括、現段階ではございますけれども、めざすべき将来像を実現するために、健康で安心して暮らせるまち「大正」、地域で支えあう安全なまち「大正」、こどもの未来が輝くまち「大正」、にぎわいと魅力あふれるまち「大正」の4つの柱を掲げ、それぞれに対する具体的な施策を推進してまいりました。これらの施策の実施により、着実にめざすべき将来像に近づいていると、今の現時点では考えております。

しかしながら、施策ごとに見れば、従来の手法では目的を達成できなかったものもありまして、今後は改善に向けた取組を続けるとともに、目まぐるしく変化する社会環境のなかで、持続可能なまちとするためには、従来の手法に取られない新たな取組にもチャレンジする必要がある。引き続き、企業を含む区民の皆さんと共に、よりよい大正区となるよう努力してまいりますということで、現実の総括をさせていただいております。

そして、裏面でございます。ここで今後の方針ということを、記載させていただいています。ここで、この方針について皆さんから御意見をいただいて、決めさせていただきたいと思っています。この方針を軸に、令和8年度の新たなビジョンを策定いただこうと考えております。

まず、このビジョンにつきまして、区長の村田のほうから、この方向性、この今後の方針について、ちょっと語っていただこうと思いますので、よろしくお願いいたします。

○村田区長

それでは、私のほうから、将来ビジョン2025総括の後、今後の方針について皆さんと御議論しながら進めていきたいと思っていますので、今後の方針（案）というふうに思っただけならばというふうに思ってます。

私、大正区に来て、もう十何年になります。その間、大正区の人口がどんどんどんどん下がってきてたんですけども、最近下げ止まっているんですよ。逆に若い人口

が増えてきてます、20代それから30代が、実はすごい流入してきてるんです。これ外国人だけじゃないです。1年間に外国人の方が400人ぐらい、昨年度かな、入って来られたんですけども。人口でいうと、流入人口は900人ぐらいなんですね。ということは、500人ぐらいは、よそから来た。

主に来てはる人のデータを見ると、20代、30代なんです。この方が増えている。ただ、お亡くなりになる方がたくさんいてはるんで、子供の数も少ないということで、それが行ってこいというのですかね、大体5万9,000人ぐらいで人口が止まっているという状況です。

以前、私が副区長するときにも御議論したことあるんですけども、これから日本の人口って、必ず減るんですよ。2050年には1億を切るというふうに言われてますので、人口だけで議論するという時代は、もうそろそろ違うのかなという気もしております。しからば、どうした形で、私たちの大好きな大正のまちを持続させていくかというような、そこに焦点を当てていきたいというふうに思ってます。

まちづくりの基本というのは、家づくりと同じと考えてまして、まちづくりの基本は、まず土台はこれインフラです。これまでも下水もそうですし、防潮堤もつくってきてましたし、港も整備してきました。区画整理できれいなまちになりました。インフラ、これがまず基礎になってくると思います。

その次に大事なのが、まちでお金が循環すること、経済が活性化することというふうに、私は考えています。いろんな御議論があるかと思います。そのお金が回って、まちが持続することで、その次の2階、3階部分、福祉とか子育てとかが、きちんとしたものができるんじゃないかなと。

お金が回ってないし、基礎もぐらぐらのところでは、まず福祉とか子育てというのは、なかなか難しいんじゃないかなというふうに考えてますので、まず基本はインフラ、安心・安全のまちづくり、防災も含めて、それが基礎。

そして、その次に書いてますのが、ここに書いてますように、民間主導によるまち

のリノベーションに、これまで以上に取り組んで、大正っていいよね、先ほど申し上げました、若い20代、30代の方々が大正区に流入してくる。大正というまちはいいよねって思っていていただくことで、エリアの期待値を上げて、大正っていいよねってというイメージを持っていただく。

地域で経済が循環することで、よりまちが活性化。そのためには大正区のいいこと、ポテンシャル、その第1が僕はものづくりやというふうに思っています。大正区はものづくりがなくなったら、大正区のまちはどうかと思います。それ以外にも、いろんなまちのいいところがあると思います。それを生かしてまちのリノベーションを進めて、エリアの期待値を上げていきたいなと思っています。

そして、これは大事なことですけれども、夢に向かってチャレンジする区民、昔多分小さいベンチャー企業さんがいっぱいいたくさんあったと思うんです。そこが夢に向かってチャレンジして、そして今の大正の経済が回って来ていると思います。そのチャレンジを応援する風土というのが、大正区にはあったというふうに思っています。別に経済だけじゃないと思います、子供たちがチャレンジするのは、この間ずっと地域の方々を応援してきていただいたと思っています。そういう方がチャレンジする人を応援する、そういう雰囲気をつくりたいなと思っていますし、チャレンジする区民、地域団体の皆さんはこれまでの行政の慣習にとらわれず、支援していきたいなというふうに思ってます。

これから絶対税収も下がるし、人口も下がるとなってきたら、行政が持つ「ヒト」、「モノ」、「カネ」、といった「材料」がだんだん減ってくると思います。そのときに一番大事なのが、地域も含めた力ではないかなというふうに思ってますので、それを今までやったら、高度経済成長の時代は、行政が企画して、行政がお金をジャブジャブ出して、「ヒト」も「カネ」もはきだして、まちづくりをしてきたんですけども。そういう時代から先ほど言いましたように、未曾有の人口減少時代になっていく中で、どういうふうなまちづくりをしていきたいかというのを、これから皆さんと

一緒に考えていきたいなというふうに思っています。

それを考えるときには、行政は今までの慣習にとらわれていたら、絶対に前に進みません。例えば、民間の皆さんが何かしたいと言ったときに、いやそれ今まで役所でやったことないんですと言うたら、絶対もの進みませんのでね。

私の仕えていた三代前の区長は、これを「ギリギリアウト」を目指す行政と申しております、私も同感です。コンプラ違反はあきませんよ、それは当然あきませんけれども、そういった形で、今までの行政の慣習を打ち破るようなそんな行政の取組、「ギリギリアウト」を目指していきたいなというふうに思っています。

それで、その上できちんと安心・安全、子供の未来が輝いて、愛着を持って住み続けられる。当然、福祉、子育ても丁寧にやっていかなければならないと思います。先ほど言いました、登校サポート事業なんていうのは、本当に大事な事業だと思っています。

障害を持ってる方、お年寄り、それをどう見守っていくか。日頃の見守りをいかにいざというときの見守りにつなげていくか、そういう取組も当然大事になってきます。これは引き続き今までやってきました、それは引き続きやっていきたいというふうに思います。

書いてますように、これまでの取組について、明らかになった課題等を整理して、場合によっては、当然大胆に皆さんの御意見をお聞きしながら、改善してまいりたいなというふうに考えております。

今日もばくつとしたことしか言ってませんが、基本はそういうふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○北川議長

ありがとうございました。

ただいま、区役所からの大正区将来ビジョン進捗状況という形で、何か皆さん方からの御意見ございますか。

北方さん。

○北方委員

今、区長さんが、昨年外国人が４００人と言われましたよね。４００人って大正区の中でかなり多いと思うのですけれども、その外国人の方たちが大正区に住むに当たって、どういうふう到大正区がフォローしているかとか。やっぱり外国の人がこっちに住むのにも不安やし、私らも外国の人が入ってきたら不安やと。不安だと言ったら失礼か分からないけれども、やっぱり島国根性があるから、やっぱりちょっと違うという意識がある。

それを互いがどんなにうまいことやっていくために、外国の人に習慣の違いとか、そういういろんな違いを、許される程度の部分に、やっぱり誰がフォローしていくのかとか、やっぱり若い人たちが、子育て世代が子供になって育てるのは大変やなというのと一緒に、外国の人が大正区に住むときにやっぱり不安とか、そしたらやっぱり自分の国の人たちに集まって自分らの世界をつくっていくと思うんです。ほんで、やっぱり日本語もあんまり学ぼうとせえへんかも分からないし、そういう集団ができたら、やっぱり私らは一般の人は何かちょっと不安になる、向こうも不安。そういうところのフォローというのを、やっぱり役所の人たちというか、誰がやるのかなと思ってね。最近外国の方たちが多いので、やっぱりそれはちょっと感じる時があるんです。

○北川議長

ありがとうございました。

区長、区役所から、どうぞ。

○村田区長

どういう切り口でお話をしたらいいのか難しいですが、外国人の方々もそうですし、大正区というのは、昔、日本各地からお仕事を求めて来られたんですね。昔から大正区にいてはる人というのは、すごく多分少ないと思うのです。

皆さん、四国とか九州とか沖縄とか、中にはもっと遠いところからお越しになった方がいらっしやると。それぞれ違う文化をお持ちで、違う考え方をお持ちだったと思います。そういった方々が、その違いを、違いは違いで置いておいて、お互いの共通ルールをつくりながら、まちづくりをしてきたというのが大正区じゃないかなというふうに考えています。その精神というのは、このまちには僕は根付いているというふうに信じています。

今回、海を越えて、外国から来はりました。外国から来はった人を当然排除するかそういうことはできませんし、一緒に大正区のまちの人やということで一緒にまちづくり、メンバーとして取り込む。取り込むって言い方おかしいですかね、一緒に仲間に加えなあかんかなというふうに思っています。

そうじゃないと、先ほど北方委員がおっしゃったように、1人ですごく孤立されている外国人のお母さん、ひょっとしたらいてはるかもしれません。それが今後どういうケースになってくるか、我々としても心配ですし、地域の皆さんの中には、見守っていただいてる方もたくさんいらっしやると思います。そういった形で、誰がそういった方々と間に入ってというか、一緒にまちの仲間にするかというのは、行政もそうですし、地域の皆さんも一緒になってまちづくりのメンバーとして加えていかなあかんのかなというふうに思ってます。

○北川議長

ありがとうございました。

北方さんいいですか。

○北方委員

今言われたのは、本当に理想で、すごい分かります。でも、言葉が分からないとか、そういうようなことで、やっぱりさっきも山崎委員さんが言われた、情報を皆が知ってるかというのを言われていたのですよね。

そうしたら、やっぱり外国の方たちが、大正区とか日本の情報をどのように取って

いくか、そしたら言葉も分からない人たちが大正区の回覧板が回ってけえへんとか、そういうのは入ってない人が多いと思うから、回覧板が回ってけへん、そしたら区役所の掲示板を見るのかとか、やっぱりそういう情報をどういうふうにつけていくかっていうのも、役所のほうで把握、役所にあんまり求めたらあかんのかも分からんけれど、そういうのもすごい大切なお仕事かなと思うんですけれども。

○村田区長

会長、よろしいですか。

○北川議長

はい、どうぞ。

○村田区長

もちろん、私どもから情報発信は、たくさんさせていただきますし、日本語だけじゃなしに、いろんな言語でお伝えさせていただきたいと思っています。

今、区役所の1階を見ていただいたら分かると思うんですけれども、エレベーターのところにいろんな、4か国語かな、言葉で書いています。できるだけいろんな国の方々が御理解いただけるように、サポートはしていきたいと思いますし。窓口に来られても、今、永田さん。いろんな外国語の翻訳の機械。

○永田窓口サービス課長

この4月からポケトーク（翻訳機）を導入しています。

○村田区長

機械を入れて、御案内させていただいています。その中では当然手続だけじゃなしに、プラスアルファの当然お話しさせていただきます。ただ、役所では、やっぱり限界がありますので、地域の皆さんにもお願いしたいというふうに考えています。

○北川議長

副区長。

○北吉副区長

地域に出て区民の方とお話しをして、どんな状況になってるのか、どんなことでお困りなのかなど把握していくことは大事なことと思っています。

先日、区役所近くの団地で家庭菜園をされてる方がおられて、お話ししたんですけども、この家庭菜園の区画の中には、中国やベトナムの人も入って一緒にやってますとか、ベトナムの方は多くて、知ってる仲間を呼んでくるような感じで、増えてきているのではないかというお声を聞いたりしましたが、区画ごと分かれているので、協働作業ではありませんが、そんな感じで団地の中で一緒に暮らしているようなこともあります。

子供が集まる地域の宿題カフェの様子を見に行って、子どもたちに声をかけたりしたときに、会話が伝わってるかどうか分からないなという子どもさんがいて、話をするとベトナムの子どもだったんですけども、その子の様子を見てたら、やっぱり同じ国の子どもと話している時間が多かったですが、みんなで一緒に縄跳びしたりして過ごしたりもしていました。

小学校では、学習をしないといけないということから、大変な状況もあると思いますし、大阪市の中でも外国人の子どもに向けた施策は大きな課題になってますけれども、区でも市でもいろいろどうやっていくのが、暮らしていくのにもいいまちになるのか考えていかないといけないと思います。

今は区の広報板では、防災については英語などでのお知らせを貼っていますが、いろいろ考えていかないといけないと思っています。

○北川議長

ありがとうございます。

○堀江委員

よろしいですか。

○北川議長

はい、どうぞ。

○堀江委員

堀江でございます。

先ほど区長がおっしゃって、外国人の方が400人と、その他500人ですな。20代から30代の方が多いということで、私ども三軒家東で皆さんとは、幸い人口は増えておるんですが、今区長がおっしゃるように、そのマンションができて、僕の不安は20代から30代の方が、単身赴任の方がほとんどなんですわ。

ですから町会とか、そういうの何の役にも立たんですよ。例えばマンションを建てると、そこはワンルームで賃貸ですと。そこを不動産屋が一棟とまではいきませんが、ワンフロアいろんな業者が入ったりとか、そういうことで入る。管理組合初めは建てる時には、町会費もどうのこうの言う、実際にはもう管理組合はすぐ変わりますし、不動産屋が入って、そういう状況です。

多分そんな方が、例えばうちの損害保険の会社のもんでも何人か聞いたら、もう遠くで社宅を建てて、そんな経費恐らく皆さんお分かりやと思いますが、そんなよりもマンションで近くから来たほうがええと。電車賃からね、ちょっとぐらい家賃が高くてもってね、大正は地下鉄できましたからね、一気に良くなりましたからね。

そんな状況で増えとるだけで、だけ言ったら失礼ですよ。だから実際例えば小林にここきれいマンションができて、僕マンションとか団地できてあそこに入っておられるんか何かも分からん状態やで、そこで小林の小学校が閉鎖せないかんとか、そんな根本的なところから、何かもう一回考えてもらわんとね。

外国人の方が増えて、うちの真ん前でも、家族で御夫婦と子供4人おる。そやけれど子供は一生懸命、日本語を勉強しよる。おっちゃん何してんの、お前らも日本語しゃべれと、親にも日本語しゃべれ、おまえらはと言うて僕が怒るんですけれども。そんなにやるから周りと付き合いできへんねんって言って。僕はこんな性格やから言うてますけれどね。

そういう付き合いしていかなと、学校っちゅうのはのなんぼでも増えるんですよ。

多分僕分からへんですけど、このね、南から北のどこですか、そういう中国人の方が多いというのも現実に僕も聞いてますし。

ですから、そこらをもっとほんまに掘り下げて考えてもらわないと、ただ人口が増えただけで、例えば柊さんところへお見えの方、200人からおられるでしょう。入籍してはれんのでしょうか。入籍というか、住民登録してはるんですか、これ。

○柊委員

してます。

○堀江委員

ほんなら、そんな方は増えてるんですよ、現実に。いやそれが何にもならんって失礼な言い方をして申し訳ないですが、本当に勉強して帰って、地域でコンビニやら勉強されていると思うんですけどね。

そういう実態もやっぱり考えていかんと、その方が僕は何人おられるか、実際にはその何人もおられませんもんね、勉強されておられる方、柊さんところの。半年とか1年とかいう単位でしょう。

○柊委員

1年半から2年在籍している。その中で、卒業してから。

○堀江委員

どこかに行かれますわな。ここだけで、200人おりまんねんで。

○柊委員

実際は160ぐらいですけども。一応その留学生、毎年、年2回、160ほどの学生たちが入ってくるんですけども。それで、1年半、2年たったら卒業して、次のところへ行く。

ただそれが大正に残る学生も結構います。やっぱりこの住み慣れてずっといたいという学生もおれば、ほか就職とか進学で関東に行ったり、他府県に行ったりする学生もおりまして、そこら辺、どこまで定住させるかというのは、また雇用の機会とか、

どんどんつくっていただけたらなとは思っております。

○堀江委員

すみません、話が飛びましたけれども。そういう形で。ただ増えている、増えているだけで喜んでるんやったら、ちょっと行政は甘いなど、僕はきつい言い方やけれど、もう現実には例えばさっき企業さんに協力してやっていただこうとか、例えば三軒東、立派な企業さんぎょうさんあるのですが、みんな配送センターで、総務部もないような会社です。そこへ行って地域ちょっと協力してと言って、なかなか町会費の1つもくれない。例えば中山製鋼さんみたいな大きい会社があれば、協力金も違うわけですから、そこらはもう温度差も絶対違うのでね。そこらはやっぱり何も1本にはならんのかなというふうに思って、ちょっときつい言葉を言いましたが、僕は三軒家東預かってる以上、何かもういつもそれは思いまして、ちょっと言わせてもらいました、すみません。

○北川議長

ありがとうございます。

区役所のほうは、特にないですか、どうぞ。

○村田区長

村田です。

人口が増えているだけで喜んでいるとは、全く思っていないです。

○堀江委員

いえいえ。

○村田区長

人口が増えるということよりも、まちが持続することが大事かなというふうに考えています。

今回は課題提起ということで、私、今お話しさせていただきました。このとおりにしたいなということじゃなしに皆さんの御意見や北方委員の御意見もそうですし、堀

江委員の御意見もそうですし、柊委員の御意見もそうです。貴重な御意見だと思いますので、これから将来ビジョンをつくっていく中で、今の御意見、当然考えて受け止めていきたいと思いますし、行政として何をせなあかんかっていうのを、考えていかないと思っています。

それとともに、地域の皆さん、大正区にお住まいの皆さんは何ができるか、それを行政はどう支援できるか、そういう形を一緒に考えていければなというふうに思いますので、貴重な御意見ありがとうございます。

○北川議長

ありがとうございます。

ほかにございませんか。

○姥委員

姥と申します。

今、区長から人口のお話が出たんですけれども。小林はもうどんどん人口が減っていっていると思います。前回も言ったように、空地が結構、昔文化住宅がずらっと並んでたところ、全部取り壊しになって、ふと見たら、ハイヤーの方が、中国の方ですかね、そこの土地を借りてはって、もう今は車がいっぱいなのです。

その先、堀江委員さんが言ったように、小林小学校の前に市営住宅がありますね。あそこで、せっかくあんないい市営住宅できたのに、若い世代の方に入ってもらうような、何か条件があるみたいなんで、その条件をもう少し緩くしていただいて、若い方に入ってもらったらいいいんじゃないかなって思ってます。

○北川議長

ありがとうございます。

じゃあ先に、区長から。

○村田区長

村田です。

言っているのかどうかあれなんですけれど、小林というか、大正区のどちらかという
と南のほうの土地って、借地が多いんですよね。空地になって、その後が売るか言
うて、なかなか売りはらへんで、そのまま借地で何かに使わはるという。そこはね、
役所としては非常に難しくって民一民の話です。

○堀江委員

どこですか。

○村田区長

あと、市営住宅の建て替えは、今まで住んではった人がそのままどっかに行っても、
まだ住むというのが基本になってますし。けれども、空住宅もありますので、その
使い方については、当然都市整備、関係部局とお話を1回していきたいなと思ってい
ます。ありがとうございます。

○北川議長

ありがとうございます。

それでは、木幡さん、どうぞ。

○木幡委員

私も大正に住むようになって、改めて思うんですけども。すごい人情味あるまちや
など、下町やと思いますし、大阪の中でも本当にそういう地域じゃないかなというふ
うに思っています。地域コミュニティもしっかりあったりするんですけども、外国
の方は増えてきても、結局お互いが知らんままやと、なかなかその垣根は、なかな
かなくならんと。

今、万博、僕は通期のパスを買って、もう5回ぐらい行ってるんですけど、万博
に行くと、やっぱりいろんな国があって、そういうブースとかを見て、やっぱりちょ
っと分かれると興味も湧きますし、やっぱり意識が変わるところはあると思うん
ですよ。そういう触れ合う機会があったりとか、それだけでもちょっと違うんやないか
なと。

万博なんかだと、ナショナルデーとかいって、国の記念日で何かイベントをやってはったりとかして、面白いなと思って、全然知らなかった国でも興味は湧きますしね。もしそういうことが何かできるんやったら、その国の方もやっぱり郷里の方とやっぱり勤めてはるところが違うかったら、接点がないかも分かんけれども、そういう場があったりとかしても、面白いかなと思います。

僕は以前、大阪の市立のデザイン教育研究所って、市立の専門学校ありますよね、デザインの、あと工芸高校となつて。そこに一遍訪問して、先生がお話をしたときに、あそこは結構面白い修学旅行をやっているのですよ。市立の専門学校はすごい面白い教育をやっているなと思って、すごい勉強になったのですけれども。海外ヨーロッパとかに修学旅行へ行かれて、そのまちのやっぱり文化みたいなのを学びはるのですけれども。

ヨーロッパのまちって、大人の人が夜、お酒を飲んだり食事したりする場に、子供が来てるんです。でもその場に結構すごい芸術が、ものすごいバイオリニストがすごい演奏を弾いたりとか、画家の人がその場で絵を描いたりして、子供らがそういうのも本当に身近に触れ合う機会があるらしいんです。それがすごい情操教育になって、そういう芸術的な感覚みたいな、子供たちが自然と学ぶというところがあるらしいのです。

この間からも議論になってますけれど、大正区、高校が全部なくなってしまうというのは、もうショックで、本当に学校へ行かしてもらって、僕らもちよつと授業を担当させてもらったこともあるんですけれど、そんなことやつときながら、もうちよつと何かできへんかったんかなと。もう後になって、なくなるのが気付いてから知るといのは、本当に愕然としたところがあつて。僕らももうちよつと何か、実はこれコロナでできひんかったのですけれど。ずっとものづくりの授業で、ものづくりフェスタをさしてもらって、子供さんらがその日だけ来て、ものづくり体験したりとかして、結構喜んで帰ってもらって、子供さんが楽しんで帰ると、親御さんはみんな結構、子

供が喜んでるのが嫌な親おらんのですね。みんな結構にこにこして、みんな帰ってくれはるんですけれども。そういう自然と触れ合う場というか、コミュニティの場を、やっぱりつくっていくみたいなことは、もうちょっとできるんじゃないかと。僕らもちょっとそこら辺の努力ができませんでしたと思うんですよ。

けれど、やっぱりそのイベントのときだけやなしに、かつコロナの前に何をしていたか、発明クラブみたいなのをやりたいなと。ものづくりフェスタみたいなんでやってる、僕らはものづくりで結構いろんな日常の改善活動とか、そんなのがふだんからやっぱりやるわけですよ。そうすると、今ある課題をどうやって解決していくんやっていうのが、自然と考え方の中についてきたりするんですけれど。例えばその芸術とかそんなじゃなくて、ものづくりの発想というか、自分らで工夫して、物事を解決していこうよというのが、ひょっとしたらシャッターの向こうで何やってるか分からへん、このおっちゃんらも子供さんと、もうちょっと触れ合う場、ものづくりフェスタだけじゃなしに、日常でもまち中でそうやって話をする場とか持ったら、子供さんらもいろんな問題解決を、自分らでちょっと工夫してやってみようかみたいな、そんなのが僕らもお伝えできたらいいなと思って、結構ね、発明クラブというのをやりたくて、結局、ちょっとコロナで頓挫してしまったんですけれど、もうちょっと僕らもできることあるんじゃないかなというのは、未だに思ってるんですけれど。

そういうやっぱり触れ合う場みたいなのを、もちろんこんなのは多分工業会の青年部とか、そんなところから、区役所にもお話をさしてもらって、こんなことできませんかねっていうのを、もっと言えることもあると思うので、そうやっていくと、僕らもやっぱりこういう区政会議に出させてもらって、やっぱり自分たちがまちの課題は、自分たちの課題だと思えるようになったんですよ。以前はそんな感覚が全くなかったけれど、我が事にやっぱりなってきているので、区民の方がみんなそんなふうになんかちょっとずつそういう気持ちが醸成されるような場づくりを、やっぱりこれからいろいろ本当に我々自身も行政の方々だけでなく、我々自身も主体的に何かそういうふ

うなことを考えるような機会をつくってもらえたらええかなと。

ほんまに僕ら子供さんらと対話する場なんかは、本当はやってみたいんですよ、イベントとかでね、子供さんの気持ちを聞いてみて、何か問題があったらそれ一緒に考えようかみたいなこととか、海外の人もやっぱり何か触れ合う場があれば、もうちょっとお互いに理解ができて、お互いがお互いのことを思う、本当に理想の、それこそまちのビジョンやと思うので、何かそういうことをいろいろ考えていったらいいなというふうに思っております。

以上です。

○北川議長

ありがとうございました。

区役所のほうはないですか。

○西尾区政企画担当課長

すごくいい御意見、ありがとうございます。おっしゃったように外国人と触れ合う機会とか、芸術と触れ合う機会、そしてものづくりと触れ合う機会というのができるまち、将来ビジョンなんかもそういった形で夢じゃないですけども。こういったことがあったらいいのになんていうことを、御意見をいただいたら、それをどうやって将来ビジョンに移していくかということもありますので、ご意見ありがとうございます。

○木幡委員

文化も触れ合うコンサートをやりはったりとか。そんなのも大正は結構やってはるし、もうそういう意味では、すごい素晴らしいなと、僕なんか思ったりするんですけど。なかなかね、そう言って、行けてなかったりするかも分からないですけども、もうちょっとそういうところも、これからも継続してやっていただけたら、いいまちにどんどんなっていくような気はちょっと期待はしております。

○北川議長

いいですか。

ほかの方どなたか、山崎さん。

○山崎委員

山崎です。

外国人の方々もそうなんですけれども、我々地域住民もやっぱり町会に入らないといけないと思います。でも、自分が住んでるところは、どこの地域で何町会で何班なのかというのを、分かってる人が果たして何人いてるのかというところなんです。

以前、防災訓練をこの間行いまして、その際に、私、小林地域の広報部会の部会長をしてまして、そこでポスターを制作しまして、自分が住んでいる地域の自分の住んでるところは、何町会か御存知ですかというポスターを作って。防犯のほうの資料をお借りしまして、小林の防災マップというのを貼り付けて、小学校に出したんです。

ほなら、僕のところ、私のところは、ここなんや。ここの町会で、この範囲やから、ここに避難しないといけないんだっていう子供たちが結構いたみたいで、そういうのもやっぱり全住人に知っとかなあかん。もちろん区役所のほうにも、防災マップ、津波避難マップがあると思うんです。

お願いなんですけれども、外国人の方用にも制作をしていただきたいのと、やっぱりしつこく言うようすけども、やっぱり周知っていうところが、やっぱり足りてないのかなって。まずは自分がどこに住んでいて、どこの地域で、どこの町会で、どこの班なのかという把握から、そこからがまずは町会に入る一歩なのかなと思います。その辺をもうちょっと区役所のほうで、プッシュしていただければなと思います。

以上です。

○北川議長

ありがとうございます。

これに関して、区役所のほう。

○細川地域協働課長

地域協働課の細川です。いつもありがとうございます。

町会の加入につきましては、各地域の町会長の皆様といろいろ御相談しながら、各地域で取組をされていますので、その取組をさせていただいています。何か御相談がありましたら、引き続き支援させていただきたいと思っております。

また町会についての周知もしていこうと思っております。ご意見ありがとうございます。

○北川議長

松村さん、どうぞ。

○松村委員

松村です。

私も鶴町に住んでるんですけども、町会の話が出たんですけども、町会に入ってくださいという、入りたいんですけども、私も実際に町会がない、市営住宅なんですけれども、市営住宅に入るときは町会に入りましょうって、ちゃんとチラシも入ったんですけども。

入ってくださいで終わるんじゃなくって、ここの住宅に入ったら、町会も入りましょうと、入ってくださいっていう強制的なものがなかったら、1人、2人とか、私は本当に運動をして町会をつくろうと思ったんですけども、やっぱり自分が中心になってできる力もないし、応援してくれる人はいると思いますけれども、そういうことをうたってるのだったら、住宅に入ったら、ともに町会に入りましょうっていうことを踏まえ、住宅は住宅の管理センターがありますけれども、そういうところに、もう少し言ってほしいとか、もうそれだけの宣伝するんやったら、強制してほしいなと思います、お願いします。

○北川議長

ありがとうございます。

ほかに何かないですか。ほかの方、どなたか。

細川さん、どうぞ。

○細川地域協働課長

地域協働課の細川です、御意見ありがとうございます。

現在のところは、なかなか町会加入につきましては、強制することは難しい状況です。

ただやはり地域コミュニティへの参加は大切で、いざという時もそうですし、日頃からつながりが無いと何かとお困りなることにもなりますので、そういうところを皆さんに分かっていただけるよう、できるだけ町会に加入していただけるような形で取組を進めていきたいと思っております。

○北川議長

区長、どうぞ。

○村田区長

松村委員、ありがとうございます。

どこの区も、前は東住吉にいたんですけど、そうなのですけれども。どこの区でもやっぱり町会があり、加入率の低下が課題になっています。

ただ今までどおり、各区で町会加入のアクションプランを、去年つくったと思うのですけれども。作ってアクションプランをつくただけで終わっては絶対いけないと思っていて。そしたら地域の皆さんが何をして、我々が何をして、そこをどう埋めていくねんというのを、きちんと考えていかなあかんのかなと思ってます。

今までこういう方法をやったらできへんかったら、逆にこういう方法できないかというのを、それこそこのビジョンの中でも考えていければなと思ってます。入れ、入れ、入れと、念仏のように唱えるのもありですけども。違う方法、例えば町会に入らなくても一回祭りに来てやとか。あるいは、もっと極端な言い方で、1年間お試しで準会員で町会費ただにするから、1回おいでやとか、いろんな何か方法があるんじゃないかとか、そんなんも一緒に議論できたらなというふうに思ってます。これはま

た町会は町会で地域の皆さんと考えていきたいなと思っています。

○北川議長

ありがとうございます。

中島さん。

○中島委員

中島です。

区長がおっしゃった人口減少は仕方がないっていうところは、私は諦めたらあかなと思います。日本人もっともっと増やしていく手段はなんぼでもあるのじゃないかなと。

うちの町会では、去年一昨年から民泊がどんどん増えてきたときに、町会員の皆さんに、毎月手紙を書いてるんですけども。外国人であれ、隣の近所の方、それから民泊に通われてる旅行者の方、皆さんに挨拶しようと、町会員のみんなからのほうから挨拶をしましょう。「おはよう」、「おはようございます」、「こんばんは」、こちらのほうからかけていきましょうという運動をしました。

そしたらトラブルがちょっと収まってきているのです。言葉を向こうがどう思うかは別に、こっちは笑顔で「おはよう」と言おうということをしていったら、今年初めて中国人の方が町会に入ってくれました。

だからそういった成功例もあるんです。ただ致し方ないのは高齢によって亡くなったり、それから施設に入ってたんで、退会させてもらうとかいう方がやたらと多いんで、実際は減ってます。ただ、新しいそういう入れ替わりの活動というのも、地域は地域でやってますので、あとは行政のほうから後押しが必要かなと思います。どうぞよろしくお願いします。

○北川議長

ありがとうございます。

まだまだいろいろと御意見をお伺いしたいんですけども、時間に制限があります

ので、発言できなかった方は、御意見シートにて後日提出をお願いいたします。

それでは、これで議題2を終了いたしたいと思います。大変貴重な意見をいただきましてありがとうございます。今後の将来ビジョンの意見に生かしていただきたいと思います。

本日予定されている議題は、以上で終了とさせていただきます。皆様方の進行に協力ありがとうございました。どうもありがとうございました。

(拍手)

○西尾区政企画担当課長

それでは、本日の配付資料の中に意見シートがございますので、本日の会議で発言できなかったことや、本日の議論を踏まえて、改めて御意見、御質問がございましたら、御記入は6月30日月曜日までに提出をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは本会の結びに、区長の村田より一言御挨拶させていただきます。

○藤田委員

万博の話が出たのですが、大正区さんが関わっている日が何かありましたね。いつでしたか。

○西尾区政企画担当課長

7月27日に女性会の盆踊りがございまして、8月3日に大正ミュージックフェスティバルということで、また7月の広報紙で周知させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○藤田委員

ありがとうございます。

○北川議長

どうぞ。

○村田区長

本日は姉川委員、誠に申し訳ございませんでした。音声がうまくいかず、それから途中切れたりして、本当に申し訳ございません。これちょっと反省点として、次回、もう一回担当と考え直したいなと思ってますので、申し訳ございませんでした。

あといろいろな御意見いただきまして、ありがとうございます。本当に勉強になりました。ビジョンをつくるに当たって、行政として何ができるか、地域の皆さんと何ができるか、もう一回皆さんと考えるという自信がすごく湧いたかなというふうに思います。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(拍手)

○西尾区政企画担当課長

それでは、これをもちまして会議を終了させていただきます。

それでは、次回区政会議は9月19日金曜日となっておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、お帰りの際は1階の玄関が閉まっておりますので、2階からのお帰りをよろしく願いいたします。

それでは、本日は遅くまでどうもありがとうございました。

—了—